

ジョンソン基地審発第 4 号

令和 2 年 1 0 月 7 日

入間市長 田中 龍夫 様

ジョンソン基地跡地利用計画審議会

会 長 関 根 栄 一

ジョンソン基地跡地留保地（入間市駅前側）の利用計画について（答申）

令和 2 年 2 月 1 3 日付け入企発第 3 0 6 号で諮問のあったことについて、下記のとおり答申します。

記

1 答申内容

ジョンソン基地跡地留保地利用計画に位置付けている、入間市駅南口交通広場と馬頭坂線を接続する道路の先行整備の可否について、当審議会は「可」と判断します。

市民の利便性の向上等を考えると、早期の道路整備の必要性があると判断します。ただし、利用計画（平成 2 0 年 6 月策定）の見直しと併せて、留保地の一体的な活用も視野に入れて整備時期の検討を図るべきであることを申し添えます。

2 答申に至った理由

(1) 道路整備の必要性について

① 道路を整備することにより、入間市駅を中心とした回遊性が向上し、稲荷山公園駅方面や国道 1 6 号方面から入間市駅への交通の利便性が増す。また、通学する学生の道路利用により、道路を中心とした留保地一体の活性化が期待される。

② 道路整備が留保地全体を分断するという懸念があるが、残る土地に一定の面積が確保されていることや、利用計画の中で活用方向が示されることから、道路が土地活用の選択肢を狭めたり、土地の一体的な活用を制限したりするものではない。

(2) 道路の整備時期について

ライフラインの埋設等を考慮すると、道路周辺の土地利用を決めてから道路を整備する方が望ましい。

※ なお、審議の過程において、次のような意見もあったことを申し添えます。

① 高低差がある土地形状のため、道路周辺の施設整備に制約の生じないような道路を計

画すべきである。

- ② 整備する道路は、歩行者や自転車の利便性及び街灯の設置や見通しの良さなどの安全性にも配慮すべきである。
- ③ 年数経過により事業効果が減少しないよう、道路整備決定後はなるべく早期に事業着手すべきである。
- ④ 土地利用のテーマや景観に一体性のある道路を整備し、地域の特性や魅力あるまちづくりにつなげていくべきである。